

2011.3.11 東日本大震災

現地支援委員会

「第24号」

ニュースレター

2016年7月20日



牡鹿半島

from 東北

● 牡鹿半島・給分浜きゅうぶんはまのみなさまより

給分浜は、私たちが現在も継続している牡鹿半島の支援場所の中でも、最初期から関わりをいただいている場所の一つです。私が給分浜を最初に訪れたのは2011年4月初旬でした。当時、給分浜は甚大な津波被害を受け、辛うじて残った民家に数家族が暮らしている「民泊」が多い地域で、1つの家に20人以上が生活している家もありました。そのような家と家の間の小さなスペースにテントを張り、住民の方々によって「対策本部」が設けられていました。

震災から1カ月も経っていない当時、仙台地区の教会自体が被災し沿岸部支援の態勢が整っていなかったため、連盟対策本部から派遣された酒巻宏明牧師（アトランタ日本語バプテスト教会）、播磨聡牧師（広島教会）、野口哲哉宣教師長や北関東地方連合の方々などのお働きによって関係が生まれた地域の支援活動に、仙台地区の教会から個人的に参加していくという形でした。そのような中で始まった給分浜での支援活動は、原則毎週土曜日。炊き出し、「がれき」撤去作業、牡蠣養殖準備のお手伝いなどを行いました。その後、仮設住宅が完成し2011年9月から「宮城チーム」でこの支援活動を引き継ぎました。牡鹿半島では野菜が不足しているということから、野菜配布を始めたのもこの時からです。以来、仮設住宅だけではなく在宅の被災者のためにも同じように支援すること、地域の方々をつないでいくお手伝いをしていくこと、神様の愛と希望を行動で証していくことを方針として現在まで様々な形で支援活動を続けてきました。この歩みの中で失敗や挫折も経験しましたが、主イエスの執り成しと憐れみ、また住民の方々のご理解とご協力によって、地元では『バプテストさん』と呼ばれ今日まで豊かな関係を持たせていただいている奇跡を思い、心から感謝しています。

（仙台長命ヶ丘教会 金丸 真）

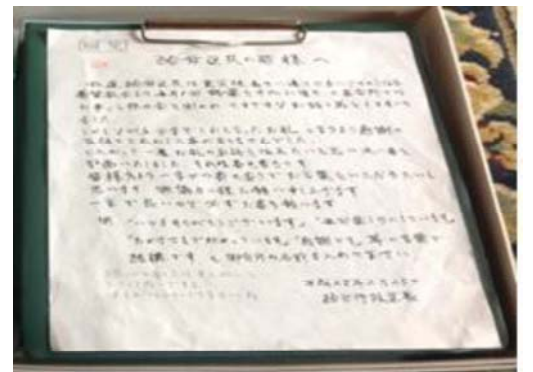


給分浜のみなさまから、全国の（世界中の）『バプテストさん』に寄せ書き（色紙）をいただきました。

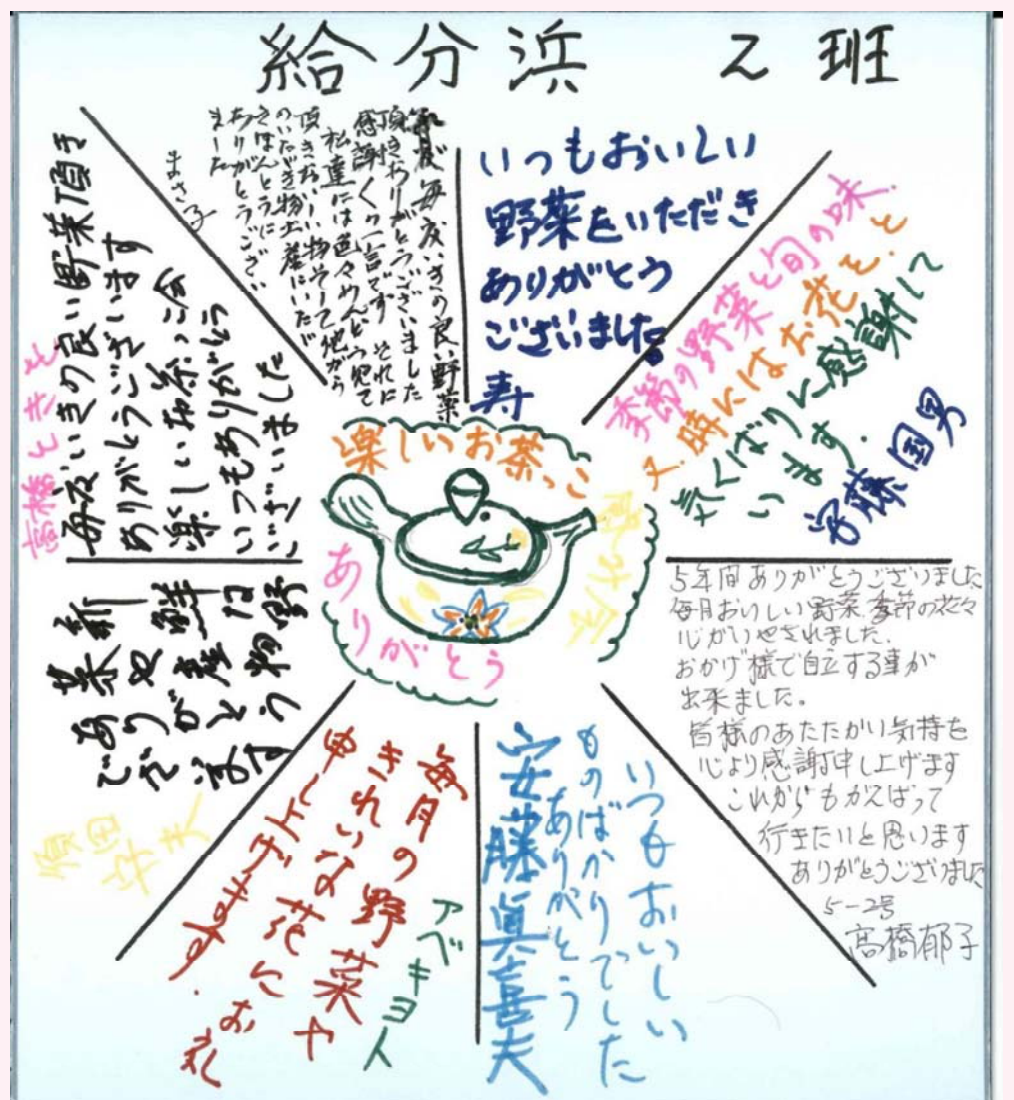
東日本大震災から5年、やっと仮設住宅から引越し、再建の新居での生活が始まっている給分浜。その給分浜区長さんのお声かけにより、区民のみなさまお一人おひとりがメッセージを寄せてくださいました。主の先立ちによる出会い・つながり・交わりを心から感謝いたします。以下の文は、色紙に添えられていた、区長の管さんからの挨拶文の一部を抜粋したものです。（南光台教会 笠松絹子）

「みなさまへ。長きに亘りご支援をいただき、本当にありがとうございます。」

思い起こせば、野菜一つ一つに、また時にはお花をとみなさまの心がこもっていて、暖かい気持ちを受け止めながらいただきました。何かお礼をと思っていると妻の発案で寄せ書きがいいのではとなり、区民の人たちの協力を得て立派とは言えませんが、なかなかのものになったと思います。給分浜のみなさんのお礼の気持ちと思って、是非お受け取りいただけたらと思います。本当に長い間ありがとうございます。」給分行政区長



＜区民のみなさまに色紙のお知らせをした際の回覧板です＞



現在、給分浜仮設住宅は4月～5月にかけて高台にある再建住宅、復興公営住宅の完成にともない3戸（再建住宅建築中）を残して引っ越しが完了しました。約2年遅れで念願の新居に引っ越されたみなさまの思いもひとしおです。今後、9月末をもって仮設住宅・集会所は閉鎖され、解体後、土地は地権者に返還される予定です。それを受け、給分浜支援は6月でお野菜の配布を終了し、7月からは集会所での「お茶っこ」のみとなりました。私たちは、仮設集会所の閉鎖までは環境の異なる住宅地で新生活を送ってられる、特にお年寄りや、今も仮設で暮らしている子どもたちを中心に仕えさせていただきたいと願っています。（大富教会 小田 衛） 給分浜高台復興住宅（右側下が給分浜港） 7月16日(土) アロマ虫よけスプレー作り

